

講義コード	1116120002
講義名称	社会学A 02<春>
科目英文名	Sociology A
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	0SOC1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
金 太宇

講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
授業形態		実務経験のある教員による授業① 政府・地方自治体、日本学術会議等の委員経験、データアーカイブの運営経験を持つ教員が政府および地方自治体での社会調査の実施・利用、政策について解説・講義する。

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	●社会学の成立とその展開 「社会学」とはどのような課題に向き合い、なにを追究してきた学問なのだろうか。哲学、政治学、歴史学などに比べ社会学は比較的新しい学問といえるが、これらの学問領域とはいかなる点で異なるのだろうか？ 社会学の主要な概念や命題を学びながら、社会学の独自性を理解し、「社会的なものの方」を獲得することを旨とする。
学習（到達）目標	(1) 「社会学」とはなにを旨とする学問なのか？ を自分の言葉で説明できるようになること (2) 社会学の重要概念を学び、「ステレオタイプ（偏見）」を批判する視点を獲得すること (3) 自分の怒り、悩みなどの問題意識を社会的な「問い」に変換し、考察する力を身につけること 以上を通じて社会に生きる「私（個人）」を位置づけ、そしてともに生きる「あなた（他者）」への想像力と感受性を育み、社会的な視点を身につける。

講義・演習計画

回	内容
第1回	はじめに——社会学とは何か
第2回	社会学のアプローチと方法
第3回	近代社会の登場と社会学の誕生
第4回	自我の発達と他者
第5回	地位と役割
第6回	集団と組織
第7回	アメリカン・ドリームと移民
第8回	都市の発展と秩序
第9回	逸脱と社会統制
第10回	学歴主義と脱学校化
第11回	社会的格差と階級・階層
第12回	家族とライフコース
第13回	ジェンダーとセクシュアリティ
第14回	新しい貧困と社会的排除・包摂
第15回	まとめ——社会学の過去と現在

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	「その他」は授業内容に関するミニテストです。出題のタイミングと回数については、初回のガイダンスで担当者から説明があります。回答期限は厳守してください。なお、感染症等で、授業形態が変更になる可能性があります。
---------------	---

参考文献	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学（新版）』2019年、有斐閣、3,850円（ISBN 978-4-641-05389-2）近日中に改定予定。 間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸『新・消費社会論』2021年、有斐閣、2,750円（ISBN 978-4-641-17461-0） 友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』2021年、丸善出版、3,800円（ISBN 978-4621305553） 中西啓喜・萩原久美子・村上あかね編、『大学生からみるライフコースの社会学』2024年、ミネルヴァ書房（ISBN 978-4623097807）
事前および事後学習の指示	授業の内容に関連する新聞やニュースを読んでおくこと。 授業時間外の質問はメールよりもM-PortのQ&Aが望ましい。平日に寄せられた質問は24時間以内に回答するが、土日祝日や長期休み中は返信が遅れる場合がある。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	近代、秩序、自我、他者、地位、役割、集団、組織、移民、都市、逸脱、学歴、格差、階級・階層、家族、ライフコース、ジェンダー、セクシュアリティ、貧困、社会的排除・包摂

講義コード	1611070000
講義名称	財務会計論B <春>
科目英文名	Financial Accounting B
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	ACCT3402
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
岩崎 瑛美

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	財務会計は、企業活動の成果や財政状態を一定のルールに基づいて測定・表示する制度であり、その背景には会計基準や概念的枠組みが存在します。本講義では、財務会計における認識・測定・評価の考え方や制度的背景に焦点を当て、会計処理の選択が財務諸表にどのような影響を与えるのかを検討します。これにより、財務会計を単なる記録手段としてではなく、意思決定や利害調整のための制度として理解することを目指します。なお、本講義は「財務会計論（A）」を同時履修することが望ましいです。
学習（到達）目標	本講義では、財務会計における認識・測定・評価の考え方を理解できるようになるとともに、会計基準や制度的背景を踏まえて、会計処理の違いが財務諸表に与える影響を説明できるようになることを目標とします。

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義概要
第2回	財務会計の機能
第3回	財務会計の制度
第4回	利益計算の仕組み
第5回	会計理論と会計基準
第6回	会計情報の質的特性
第7回	利益測定と資産評価の基礎概念
第8回	現金預金と有価証券
第9回	売上高と売上債権
第10回	棚卸資産と売上原価
第11回	有形固定資産と減価償却
第12回	無形固定資産と繰延資産
第13回	負債
第14回	株主資本と純資産
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	試験100%（課題12回各5%、最終課題40%）
---------------	--------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	桜井久勝	財務会計講義	大学オンライン 販売	978-4-502-53911-4	中央経済社	最新版

参考文献	必要に応じて指示します。
事前および事後学習の指示	【事前学習】各授業の該当箇所について教科書を読んでください。学内ポータルサイトから講義資料を入手してください。 【事後学習】授業で実施した内容について復習して、課題に取り組んでください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	財務会計、企業会計、制度会計、財務諸表

講義コード	14D2110000
講義名称	日本経済史Ⅰ <春>
科目英文名	Economic History of Japan Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1470
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
見浪 知信

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	近世から1900年代にかけての日本経済のあゆみを、通時的に講義します。本講義では、日本経済について統計データや図表もとに具体的に説明します。また、現代社会への接続を意識しつつ、国際比較や国際関係といった観点を取り入れて講義します。
学習（到達）目標	① 日本経済について、基本的な知識を習得し、その展開を説明することができる。 ② 日本経済を、国際比較および国際関係といった観点で捉えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス 日本経済のあゆみ
第2回	近世① 近世の貿易
第3回	近世② 近世の農業発展
第4回	近世③ 国内市場の形成
第5回	近世④ 近世の物価・財政
第6回	幕末・維新时期① 開港の経済的影響
第7回	幕末・維新时期② 明治維新
第8回	幕末・維新时期③ 地租改正と秩禄処分
第9回	幕末・維新时期④ 殖産興業政策
第10回	幕末・維新时期⑤ 松方デフレ
第11回	産業革命期① 企業勃興と産業革命
第12回	産業革命期② 企業勃興の制度的基盤
第13回	産業革命期③ 日清・日露戦争と日本経済
第14回	期末試験
第15回	学期の振り返り、まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	30%

その他	
-----	--

成績評価の方法（コメント）	この講義の成績は、第14回の講義時に実施される期末試験、および講義中数回出される小レポートから算出される。
---------------	---

参考文献	タイトル：『日本経済史：近世から現代まで』、著者：沢井実・谷本雅之著 出版社：有斐閣、ISBN：9784641164888、備考：2016年出版
事前および事後学習の指示	授業前に、授業レジュメを印刷し、目を通しておくこと。 授業後に、授業レジュメの内容を復習し、小レポートおよび期末試験に向けて学習すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	15D0620000
講義名称	スポーツ社会学[2] <春>
科目英文名	Sociology of Sport
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC2470
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
大野 哲也

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 1986年4月から1992年3月まで 中学校教諭。1988年4月から1990年4月まで青年海外協力隊。1993年5月から1998年5月まで自転車世界一周。これらの経験をもとにして講義をすすめる。
------	----	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 その他
---------------	-------------------------------------

講義・演習概要	<p>スポーツ基本法は「スポーツは、世界共通の人類の文化である」という言葉ではじまる。オリンピックやサッカーのワールドカップなどのメガ・イベントが開催されると、熱狂が地球を覆い尽くすことを思えば、この言葉には強い説得力がある。</p> <p>だが、それと同時に、イベントを巡って多くのヒト、さまざまなモノ、巨額の資金、あらゆる情報が地球を駆け巡ることで政治、経済、教育、ジェンダー、宗教など、多様な問題が浮かび上がる。つまり、現代社会におけるスポーツは、現代社会を映し出す鏡でもあるのだ。</p> <p>本科目では、スポーツを巡って生じる諸問題を考察し、21世紀社会にふさわしいスポーツのあり方を展望する。</p>
学習（到達）目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 従来から言われているような「する」「みる」「ささえる」というスポーツへのかかわり方を超えて、スポーツにはさまざまな社会的機能があることを理解し、それを実生活で応用できる力を身につける。 2. スポーツが他の諸分野と深く関連していることを理解し、スポーツを単体として考える視点とスポーツを含めた全体を考える視点、さらにグローバルな視点とローカルな視点を相互に往復しながら考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義の概要の説明 成績評価の説明 諸注意について。 なぜ今「スポーツ」を考える必要があるのか？ スポーツを考えることの社会的意味と意義について考える。 なぜ東京オリンピックは1964年におこなわれたのか？
第2回	スポーツの歴史と平等性
第3回	スポーツと性
第4回	スポーツとジェンダー
第5回	スポーツと人種
第6回	正統的周辺参加論とはなにか
第7回	障がいの社会史
第8回	スポーツと障がい
第9回	スポーツと道具
第10回	ドーピングは悪なのか
第11回	スポーツと環境
第12回	相撲の文化史
第13回	ボクシングの社会史

第14回	まとめ スポーツと人権
第15回	まとめ 21世紀のスポーツにむけて

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	今泉隆裕・大野哲也 編	社会をひらくスポーツ人 文学	大学オンライン 販売		嵯峨野書院	

参考文献	大野哲也『大学1冊目の教科書 社会学が面白いほどわかる本』KADOKAWA 今泉隆裕・大野哲也編『スポーツをひらく社会学』嵯峨野書院
事前および事後学習の指示	事前学習30時間。事後学習30時間。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	スポーツ、身体、歴史

講義コード	1C30350000
講義名称	教養教育特別講義-家の変容と家族 <春>
科目英文名	Special Topic in Liberal Arts-The Transformation of the le and family of Japan
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	LBAT1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
大野 啓

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	現在の日本社会では家が表面化することは少ないが、婚姻や財産相続などの場面では、突如として家が問題となることもある。これまで、日本の家に関する議論は数多く行われてきた。しかし、現在の日本社会では従来の家概念では捉えられない現象も顕在化している。そこで、本講義では民俗学・歴史学・社会学などで家とはどのようなものとして捉えられてきたのかについて検討した上で、現在の家のあり方について再検討する。
学習（到達）目標	従来、日本の家がどのようなものとして捉えられてきたのかについて理解した上で、どのように家の変容してきたのかについて、①講義内容を踏まえて説明することが出来る（必須）、②家や家族がどのような社会的条件によって変容したのかについて根拠に基づき考え、説明することが出来る、③家の変容に家族がどのような影響を与えたのかについて講義の内容を踏まえて説明することが出来る（必須）、④家の変容に家族がどのような影響を与えたのかについて、自身の考えを根拠に基づき考え、それを説明することが出来る。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス - 現在の日本における家と家意識
第2回	家とはどのような存在なのか 1 - 労働組織としてのオヤーク
第3回	家とはどのような存在なのか 2 - 家と家族との関係
第4回	日本の家の特色 - 家産・家名・成員について
第5回	日本の家の歴史的展開 1 - 一家の成立と広がり
第6回	日本の家の歴史的展開 2 - 近世の家と近代の家制度
第7回	家制度の影響 1 - 民俗慣行における家の変容
第8回	家制度の影響 2 - 家の家族化
第9回	家の周縁を構成する人々
第10回	家の変容を規定するもの - 家の地域性
第11回	家意識のゆらぎと家の変容
第12回	顕在化する家族と潜在化する家
第13回	近代家族と家
第14回	日本の社会構造の転換と家・家族
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	<p>2回のレポート提出を求める。なお、レポートを書く際にWEBからのコピー&ペーストを行なった者、生成系AIで作成されたレポートを受講生自身の考察や検討がなされないまま提出した者（及びその疑いが濃厚な者）は不正を行なったとみなし、当該レポートは0点とする。</p> <p>講義の後にリアクションペーパーを書いてもらい、それを評価に加える。また、リアクションペーパーの提出が提出機会の三分の二を下回った場合には、評価の対象外とする。</p>
---------------	--

参考文献	講義中に指示する
事前および事後学習の指示	講義中に指示した文献にできるだけ目を通すこと。また、日常生活の中で自明視している家族のあり方とはどういうものであるのかを意識すること
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	家族、文化、伝統、「家」、民俗学

講義コード	1N10720000
講義名称	会社法A <春>
科目英文名	Corporate Law A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW3400
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
大川 濟植

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 課題解決
---------------	--------------------------------------

講義・演習概要	<p>I 「会社法A」講義の目的：この授業で何をするか</p> <p>株式会社は、ビジネスを成長させるための「器（うつわ）」である。しかし、そこには株主・経営者・従業員・取引先など多くの人々が関わるため、利害が対立しトラブルになることもある。会社法は、そうしたトラブルを防ぎ、会社という器を安全かつ適正に動かすための「設計図」であり「ルールブック」である。</p> <p>本講義では、単なる条文の暗記はしない。「実務の現場で、どの選択肢をとれば適法か?」「どこに法的リスクが潜んでいるか?」これらを判断できる「思考の型」を身につけることを目指す。</p> <p>具体的には、株主総会や取締役会といった意思決定の場で、「なぜその手続きが必要なのか」「どう説明すれば紛争を防げるか」を、条文と判例を使ってロジカルに説明できるようトレーニングする。</p> <p>II なぜ、いま「会社法A」を学ぶのか?</p> <ol style="list-style-type: none">会社法遵守が「ビジネスの選択肢」を広げる <p>「守り」だけでなく「攻め」の武器になる。会社法はビジネスを縛る鎖ではない。適切な手続きを踏むことで、後から覆されない盤石な経営体制や、リスクを恐れない迅速な意思決定を可能にする「ツール」である。このルールを知っていることは、将来皆がビジネスパーソンとして信頼を得るための強力な武器になる。</p> <ol style="list-style-type: none">実務に直結する判断力を養う <p>会社の実務現場で使える「判断力」が身につく。実務では、答えが白か黒か分からないグレーゾーンに直面する。その際、「どの手順を踏めば安全か」を導き出す力が求められる。本講義を通じて、法的リスクを察知し、自信を持って意思決定に関わるスキルを養う。会社法を学ぶことで、実際のビジネスシーンでどのように法が適用されるのかを理解し、将来のキャリアに役立てることができる。</p> <p>III 授業の進め方（毎回のルーティン）</p> <p>各回、概ね次の流れで進める。「予習→実践→復習」のサイクルを回し、着実に力をつける。</p> <ol style="list-style-type: none">学習チェック（ポイント確認）：本日の到達点（重要論点）を短時間で確認し、授業の見取り図を共有する。導入事例（ケーススタディ）：実務で実際に起きそうな「数行のトラブル事例」を提示する。図表で全体像をつかむ：「誰のためのルールか?」「何を防ぐための制度か?」を図解で整理する。条文の使いこなし：法律要件→効果→例外→関連条文の順に読み、当てはめの骨格を作る。判例・学説：解釈が分かれるポイントや、実務上の「決め手」を確認する。Q&Aトレーニング：短い設問に対し、「結論」だけでなく「理由（根拠条文）」を含めて答える練習をする。
---------	--

	<p>※ 講義レジュメは原則1週間前までに配布する（箇条書きではなく、解説付きの読みやすい形式である）。</p> <p>※ 復習用録音をOneDriveで提供する。授業で聞き逃しても安心である。</p>
学習 （到達） 目標	<p>「会社法」は、司法試験・公認会計士試験をはじめ、司法書士・行政書士・ビジネス実務法務検定試験・宅地建物取引士試験など、多くの資格試験における重要科目であるが、独学では「全体像が見えにくい」と言われる。特に本講義（会社法A）で扱う設立・機関・経営陣の法的責任の分野は、企業のガバナンス（統治）や経営責任と直結する基盤的な領域である。</p> <p>本授業（会社法A）では、単なる暗記ではなく「法的な思考プロセス」を重視し、以下の状態に到達することを目指す。</p> <p>1：会社の「仕組み」を透視できる（構造理解）</p> <p>株主総会・取締役会といった「機関」が、どのような権限分配（パワーバランス）で動いているのか。所有と経営の分離や、株式会社というシステムの「設計図（ガバナンス構造）」を、図解を通じて直感的にイメージできる状態にする。</p> <p>2：条文の「ロジック」を解読できる（条文操作）</p> <p>取締役等の善管注意義務・忠実義務や、株主総会の決議要件など、組織運営のルールにおいて、条文を「法律要件→効果→例外」の順序で読み解く。なぜそのルールが存在するのかという「趣旨」から遡って、条文を自力で使いこなす力を養う。</p> <p>3：現場の「トラブル」を解決できる（法的応用）</p> <p>「社長が放漫経営で会社に損害を与えた」「株主総会の招集手続にミスがあった」といった具体的なトラブル事例に対し、株主代表訴訟による損害賠償請求や決議取消の訴えなど、法的根拠（条文・判例）に基づいた解決策を、論理的に説明できる力を身につける。</p> <p>以上の到達目標は、先に示した「授業の進め方（毎回のルーティン）」に基づいて達成を目指す。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>【第1部：会社の「カタチ」と「設計図」を作る（第1回～第3回）】</p> <p>→ビジネスを始めるための「器」である会社の基本構造と、そのバリエーションを学ぶ。</p> <p>第1回：ガイダンス&会社とは何か？</p> <p>——法人格という魔法</p> <p>【テーマ】会社の法的性質、法人格否認の法理</p> <p>【問い】なぜ会社は「人」として扱われるのか？親会社の責任が追及される「例外」とは？</p>
第2回	<p>第2回：公開会社と非公開会社</p> <p>——閉じた会社と開かれた会社</p> <p>【テーマ】会社設立、株式の譲渡制限</p> <p>【問い】家族経営の会社と、上場会社は何が違うのか？それぞれのメリットは？</p>
第3回	<p>第3回：機関設計のバズル</p> <p>——会社に合った組織を作る</p> <p>【テーマ】機関設計の多様化、取締役会設置会社、取締役会非設置会社</p> <p>【問い】取締役会や監査役は必ず置くべきか？コストと安全性のバランスをどう設計するか。</p>

第4回	<p>【第2部：会社の「持ち主」と向き合う——株主総会（第4回～第7回）】</p> <p>→ 会社の最高意思決定機関はいかに機能すべきか。招集から決議までの厳格な「手続」と、ルール違反が招く「決議の取消し」等のリスクを体系的に学ぶ。</p> <p>第4回：株主総会のリアル</p> <p>——万能か、形骸化か</p> <p>【テーマ】株主総会の権限、所有と経営の分離</p> <p>【問 い】「株主は神様」は本当か？ 経営者と株主の権限はどこで線引きされるのか。</p>
第5回	<p>第5回：株主の権利①</p> <p>——モノ言う株主への対応</p> <p>【テーマ】株主提案権、議決権行使</p> <p>【問 い】株主から「社長解任」の提案が出たら拒否できるか？ 提案権の濫用とは。</p>
第6回	<p>第6回：株主の権利②</p> <p>——その一票は誰のもの？</p> <p>【テーマ】代理人による議決権行使、書面投票</p> <p>【問 い】株主総会に行けない時、他人に投票を頼めるか？ 会社側がそれを拒否できるケースとは。</p>
第7回	<p>第7回：決議のミスとその後始末</p> <p>——取消し・無効・不存在</p> <p>【テーマ】総会の運営手続、決議の瑕疵（かし）</p> <p>【問 い】招集通知の発送漏れがあったら、決議はすべて無効になるのか？ 訴訟リスクの分析。</p>
第8回	<p>【第3部：会社の「経営者」を守る・律する——取締役と責任（第8回～第14回）】</p> <p>→ 経営のプロである取締役の選び方、権限、そして「やってはいけないこと」を徹底解剖する。</p> <p>第8回：取締役の選び方と辞めさせ方①</p> <p>——選任と資格</p> <p>【テーマ】取締役等の資格、員数、選任手続</p> <p>【問 い】誰でも取締役にになれるのか？ 従業員を取締役に抜擢する際の手続きは？</p>
第9回	<p>第9回：取締役の選び方と辞めさせ方②</p> <p>——解任と損害賠償</p> <p>【テーマ】任期、辞任、解任の正当事由</p> <p>【問 い】任期途中でクビにされた取締役は、会社に損害賠償を請求できるか？ 「正当な理由」の壁。</p>
第10回	<p>第10回：社長の権限はどこまで？</p> <p>——代表取締役</p> <p>【テーマ】代表取締役の選定・解職、業務執行権限</p> <p>【問 い】社長の一存で決められることと、取締役会の承認が必要なことの境界線は？</p>

第11回	<p>第11回：ニセ社長を信じた取引先を守る</p> <p>——表見代表取締役</p> <p>【テーマ】表見代表取締役（354条）</p> <p>【問 い】「会長」「専務」という肩書きを信じて取引したら、会社は責任を負うか？</p>
第12回	<p>第12回：裏切り行為の禁止①</p> <p>——競業避止義務</p> <p>【テーマ】競業取引規制（356条1項1号）</p> <p>【問 い】取締役が自分で別会社を作り、会社の顧客を奪うことは許されるか？</p>
第13回	<p>第13回：裏切り行為の禁止②</p> <p>——利益相反取引</p> <p>【テーマ】利益相反取引規制（356条1項2号・3号）</p> <p>【問 い】社長が自分の土地を会社に高く売りつける時、どんな手続きが必要か？</p>
第14回	<p>第14回：役員報酬のルール</p> <p>——お手盛り防止</p> <p>【テーマ】報酬決定の手続き、退職慰労金</p> <p>【問 い】社長が自分の給料を勝手に決めてはいけない理由は？ 報酬減額は許されるか。</p>
第15回	<p>【第5部】 総まとめ</p> <p>第15回：総括とまとめ</p> <p>——経営判断の原則</p> <p>【テーマ】これまでの総復習、経営判断の原則</p> <p>【内 容】あるベンチャー企業が設立され、資金調達で拡大し、組織を整備し、最後に社運を賭けた新規事業に失敗して訴えられるまでの軌跡を追う。</p> <p>【問 い】</p> <ol style="list-style-type: none"> （設立期）：株主募集の手続きをミスしたら？（設立・株式） （成長期）：社長が独断で重要な契約を結んだ。（取締役会・代表権） （拡大期）：役員が自分の所有地を会社に売った。（利益相反取引） （転換期）：新規事業で大赤字、役員は賠償すべきか？（経営判断の原則）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	20%
レポート	60%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	<p>【成績評価の方法】</p> <p>「暗記」ではなく「理解と論理的思考」を評価する。</p> <p>① 理解力テスト（配点：20点） →授業内容の定着度を確認するテストである。</p> <p>② 平常点（配点：20点） →授業への積極的な参加度などを評価する。</p>
---------------	--

- ③ レポート課題（配点：60点）
→学期中に課される課題である。「会社法A」は「課題解決型授業」を目指すので「論理的な構成力」を重視する。
- ※ 成績評価は合計100点で評価する。その詳細については、第1回目の対面授業で詳しく説明する。

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	編著（高橋英治）著者（大川清植ほか）	プリンシプル会社法	大学オンライン販売	978-4-335-35837-1	弘文堂	
2.	編集代表（佐伯仁志＝大村敦志）	ポケット六法	大学オンライン販売	9784641009257	有斐閣	

参考文献	龍田 節＝前田雅弘『会社法大要〔第3版〕』（有斐閣、2022年）
事前および事後学習の指示	<p>【受講生の学習サイクル（推奨）】</p> <p>授業効果を最大化するため、次の手順で学習することを推奨する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 予習（20～30分） → 配布レジュメを通読し、該当する条文にマーカーや付箋を貼る（これだけで授業の理解度が段違いである）。・ 授業中 → 「なぜそうなるのか？」という理由付けを常に考える。・ 復習（30分） → 学習チェック項目や授業中の設問を、何も見ずに「根拠条文」と「理由」付きで答えてみる。不明点はOneDriveで提供する録音ファイルで再確認。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	会社の法的性質、公開会社、非公開会社、取締役会設置会社、取締役会非設置会社、会社機関、株主総会、取締役会、経営者（取締役、代表取締役、執行役、代表執行役）、競業取引、利益相反取引、経営陣の報酬

講義コード	1P66220001
講義名称	生涯スポーツ論<春>
科目英文名	Life Sports
開講責任部署	
代表ナンバリングコード	000GE118
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
上田 真也

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスポーツ活動を通じて、自分の健康の維持・増進の方法について学ぶ。 ・運動の必要性について、体感する。 ・生涯にわたってスポーツを楽しむ意義について、理解を深める。
授業概要	スポーツを通じて、性別、年齢を超えた“楽しみ”や“遊び”を感じることは重要なことである。生涯を通じて身体を動かすことの喜びや爽快感、達成感を味わえ、コミュニケーションづくりや心身のバランス等をもたらしてくれる。それが生涯スポーツの魅力といえる。本講義では、さまざまな運動やスポーツを通じ、生涯にわたって健康を維持・増進していくことの重要性を感じ取ってもらいたい。
授業計画	第1回 本講義の目的、授業の進め方について 第2回 発育発達期の運動プログラム（1）（乳幼児） 第3回 発育発達期の運動プログラム（2）（小学校） 第4回 発育発達期の運動プログラム（3）（中学・高等学校） 第5回 社会とスポーツ（1） 第6回 社会とスポーツ（2） 第7回 中高年者とスポーツ（1） 第8回 中高年者とスポーツ（1） 第9回 女性とスポーツ（1） 第10回 女性とスポーツ（2） 第11回 障がい者とスポーツ（1） 第12回 障がい者とスポーツ（2） 第13回 介護予防と運動（1） 第14回 介護予防と運動（2） 第15回 生涯にわたる運動づくり
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	適宜、紹介する。
評価方法	授業態度…10% ミニレポート（毎時提出する。授業内容に対する理解度を評価する）…20% テスト…70%
既修条件	なし